



元気な笑顔がかわいい!!

12年ぶりに授かった赤ちゃん「萌」

も1月で2歳になりました。お誕生日の数日前、大好きだったおっぱいにさよならして2か月、何度も起きては泣いていた夜もぐっすりの毎日です。歌や本、シャボン玉に砂遊び、のんびり散歩と、大好きがいっぱいの萌は、このごろちょっぴり反抗期。自己主張のすごさに「もうイヤッ!」と思う時もあります。でも、とびっきりの笑顔から元気や幸せをもらっています。また、小さな手で頭をなでてもらうと痛みが和らぐこともあります。これからも「いっぱい笑って、いっぱい泣いて」心優しい人になってね。急がず、焦らず、あなたの未来を見守っていきたいです。

原町 田中智子さん 37歳



マイカーデコング 楽しいガーデニングづくり

一昨年春に南側の土地を購入して以来、菜園作りとガーデニングに夫婦で励んでいます。友人や知人のアドバイスをもとに土づくりから始め、去年は、ナスやトマト等を収穫し、苗から実になる段階を楽しませてもらい、次はもっといい野菜にするぞと今からもえています。ガーデニングは、知人の山荘から石を運んで花壇をつくり、友達や友達のお母さんから珍しい花の苗をいただき、夫のレイアウトをもとに植栽してきれいになりました。今年は、年末に植え込んだ数種の球根が見事に咲き、加えて去年咲いたノースポールやスミレが咲きそろい、玄関前のアプローチをきれいにしてくれました。これからは、雑草と戦いながら季節にあった花々や野菜づくりを楽しみたいと思っています。



横山町三丁目の上村美恵子さん

KOGA 万華鏡

田中正造と古河町民

秋の企画展に向けてその1

今秋の博物館企画展は初めて古河の近代社会をテーマにします。明治時代に発生した足尾鉾毒事件は公害問題、あるいは環境問題の原点として今では広く知られています。そしてこの事件の過程で古河もさまざまなかわりをもっています。そこで秋の企画展の概要を3回にわたって紹介します。

さらに銅山の坑道の支柱を供給するの足尾周辺の山林を乱伐したため洪水がおこりやすく被害は栃木・群馬・埼玉・茨城・東京におよびました。この足尾鉾毒問題に終生とりくんだのが、栃木県佐野出身の代議士田中正造です。おりしも日清・日露戦争の遂行に銅は必需品でした。田中の議会活動は無視されず、ついに議員を辞職すると明治天皇に直訴し取り押さえられます。大きな社会的関心をよびおこします。



旧谷中村延命院跡

一方政府は洪水の害を緩和するために谷中村を廃し遊水池にする計画をたてます。しかし田中は鉾毒問題を治水問題にすりかえるものと反対し谷中村に入ります。周辺河川の調査をおこないながら村民と行動をとるに大正2年病死します。

政府から民間の古河市兵衛に払い下げられ、当時の富国強兵策のなかで明治中頃には全国一の産銅を誇りました。ところが、そのころより渡良瀬川沿岸に鉾毒が流出し、まず川魚が死滅、つづいて沿岸の耕地を荒廃させました。

古河歴史博物館学芸員 鷲尾政市